

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293500060		
法人名	有限会社 シーシー商会		
事業所名	グループホーム つくしの里		
所在地	千葉県八街市榎戸385-1		
自己評価作成日	平成26年11月6日	評価結果市町村受理日	平成27年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年11月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その人らしい」生活が送れるよう一人おひとりの気持ちに寄り添い、常に耳を傾けるよう事業所として力を入れて、取り組んでいます。</li> <li>・利用者の健康状態を常に把握し、早めの受診を心がけ協力医療機関、訪問医と連携を取っています。また、病院の通院介助、送迎は無料で提供しています。</li> <li>・畑の中ののどかな環境にある施設です。</li> <li>・通院に同行したり、地元の食材を使った美味しい食事を作り、管理者と職員が共に入居者様を中心に捉えて、事業所として力を入れている「同じ目線」と「笑顔」「思いやり」を大切にケアにあたっています。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者、職員は利用者の言葉を否定せずに受け入れ、理念である「尊厳のある生活」の実践に努めている。帰宅願望が強く毎日家族にメールをしていた利用者が、今では気の合う友達もでき笑顔で暮らしている。また、日課にしている朝の散歩、定期的に行く図書館、買い物など一人ひとりに合った支援を提供している。訪問当日も、リビングではトランプゲームや唱歌の合唱で楽しむ様子がみられた。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「理念と尊厳のある生活を支援する」実践する上で管理者と職員は常に利用者の訴えや希望を傾聴し、関わりの中で理念を共有している。	管理者と職員は利用者一人ひとりの状態を把握し、その人を否定するような言葉かけにならないよう配慮している。利用者を尊重したケアに努め、理念の実践につなげていることが伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者と職員と一緒に散歩に出かけ、散歩されている方やご近所の方に進んで挨拶し、交流している。 地域の行事にも進んで参加し、芋掘り体験や敬老会を通して親睦を深めている。	ホームは自治会に加入している。回覧板の受け渡し時に情報交換したり、散歩時の挨拶、地域行事への参加などで近隣と交流をしている。雑巾などに利用できる古布を届けしてくれる人もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会での催し物に参加できるように会長さんの意見を聞き、出来るだけ多くの催し物に出られるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、利用者サービス状況等、施設の現状を報告し、区長、民生委員の方より意見やアドバイス、地域の祭り等の情報をいただきサービスの向上に生かしている。	今年度の運営推進会議の開催は1回であったが、地域包括支援センター職員や家族、利用者、区長、民生委員などが参加し、活発な意見交換を行っている。ホームの場所が分かりにくいという意見を受けて、分岐点に看板を出した。	開催回数を増やすためにどのようにしていくか、工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課の紹介による入居者も複数名いるため、直に詳細な情報も分かり、良好な協力関係を築いている。またその状況を維持するため密に報告・連絡・相談を行っている。	管理者は頻繁に役所に出向き情報交換をしたり、パンフレットなどを置いてもらっている。また、役所からの紹介で入居した利用者もあり、行政とは密に連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の「社内研修」で共通理解を深めると共に、拘束をしなければいけない在籍者がいない。	身体拘束廃止の研修に参加した職員が研修報告をして全職員で内容を共有している。職員は拘束を理解しており、行動を抑えるような言葉や施錠、薬の使用もない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は虐待拘束の研修を受け職員全員に伝え、虐待を見逃さないように注意を払い防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用する在籍者がいたため、学ぶ機会があり今後の参考になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約内容を説明し、その後疑問や不安な等を伺い、安心して利用して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関先に意見箱を設置している。また、面会時に利用者の日頃の生活状況を報告し、ご家族の要望も伺うように努めている。	家族の面会は少ないが、来所した際には意見、要望を聞くように努めている。電話で意見を聞くこともある。また、毎月請求書を送る際に手紙を同封し、利用者の日常の様子その他に意見があれば知らせてほしいことを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員は、何か困ったことや疑問に思うことがあれば気軽に管理者に話せる環境にあり、内容によっては担当者会議を行い職員の意見を反映させている。	職員の意見は昼食時のミーティングで聞き取り、その都度話し合い、解決するようにしている。管理者は日頃から職員が話しやすい環境をつくるように心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員が話しやすい環境をつくり、研修等に参加し、向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。また職員の希望休は100%聞き入れて、ストレスフリーの環境で働けるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は、実践者研修、管理者研修等を受ける機会の確保など、働きながらのスキルアップを勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が社会福祉協議会の開催する勉強会への参加を通じて、サービスの質を向上させるよう努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ホームに慣れて行く段階で、本人の不安な様子を観察、声かけをしながら些細な言葉や要望にも耳を傾け、安心した生活が築けるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の不安や要望をよく話し合い傾聴しながら、安心して利用者に入所していただけるよう、信頼関係づくりに努めている。また、些細なことも家族様に報告を入れ、連携を取り合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを把握し、希望に添えるよう支援している。健康状態や家族の要望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りの中で、出来ることはご自分でしていただき、困難なところは支援し反対に、昔話や長年の経験からのアドバイスは素直にお受けし、お互いに支え合う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様に面会に来ていただき、一緒にお茶を飲みながら日頃の様子を報告する、情報共有の時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様や昔からの友人、地域の方がよく見え、入居者様の状況を把握されている。また面会が困難な家族様には、電話で生活状況の報告等をさせていただいている。	定期的に家族の家に外泊する利用者への支援や、入居前から利用していた図書館に本を借りに行く支援など、これまでの関係性が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握しており、それぞれの方にあつた対応を心がけている。また、入居者との間に入り、会話を広げられるように支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用後も連絡を入れその後の生活状況等をお聞きし、今までの関係を大切に。気軽に立ち寄っていただけるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人家族から、思いを伺っており本人の意思表示ができる人が多いので、直接聞き取りをしている。入居者の表情を注意深く見守り、把握し、職員間で情報を共有している。	職員は入居者全員とコミュニケーションが取れている状況であるので、日々の関わりの中で意思疎通を図り、利用者の思いや意向を聞きとって、職員間で情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に本人、家族等から聞き取った情報をヒヤリングシートに記録、個人ファイルに綴じて職員全員が閲覧し、共通理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活の中での健康管理面にも気を配り、必要に応じてケアカンファレンスを開き現状を把握している。日に2回のバイタルチェックを行い、会話の中で顔色や精神状態に確認・配慮するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様が望む生活ができるよう本人様やご家族様の希望を聞きながら個別計画を立てている。	計画作成者は利用者とマンツーマンでアセスメントを行っている。職員は日常のコミュニケーションを通して把握した情報を業務日誌や介護記録に記載しており、それらの情報と家族の意向と合わせながら計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など細かく記録している。情報交換のための話し合いや、管理者への報告を行っている。必要があれば計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	病院等に入院された場合、家族がいない方、また、家族の状況に応じて、施設側で面会や汚れ物等の対応をしている。手術などにも施設で責任をもち立ち会いを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	八街消防署より、消防避難訓練等協力を受け支援している。 読書好きな入居者様には八街図書館へ送迎し、本を借りる機会をもうけるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診の定期検診を受け、必要に応じて受診できるような体制をとり、本人や家族の要望を大切に、必要時は家族に同行していただいている。	契約書上の協力医の他に往診医による受診も行われている。総合病院に術後の定期検診に家族と通う利用者の支援もしている。歯の治療は必要に応じて通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医と、利用者の健康状態の連携を取り、異常時には報告し、適切な支援ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを退院時には看護サマリーにて情報交換し、状況に応じて医師、ソーシャルワーカーに相談し、食事量の少ない入居者には食事介助に行き、早期退院を支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師からの情報を元に本人及び家族と相談し、方針を決めている。医師・家族・施設連絡を取り合って方針を共有している。	基本的に看取りは行っていないことを契約時に口頭で説明している。食べ物を経口摂取出来なくなった時点で、医師を含めた関係者間で話し合いを行い、今後の方針を決めている。退去時にはサービスの継続に配慮した支援を行い、利用者の不安を軽減できるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急、事故対応マニュアルを元に、社内研修で全職員が理解し、対応できるように支援している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防員の指導により避難訓練・消火訓練・総合訓練を実施、緊急時に慌てないように通報マニュアルを掲示し、職員がいつでも対応できる体制を整えている。運営推進会議・自治会にて少しずつ協力体制を整えている。	今期、防火管理者の入れ替えがあったため、消防署の指導による訓練が行われていない。近隣住民とは、災害時の協力体制を申し入れ、了承してもらっている。また、ガスの元栓をその日の遅番職員が点検票にチェックを入れてから帰宅することを義務づけるなど火を出さない工夫をしている。	全職員が迅速な対応ができるように、今季未実施の訓練を早急に実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	無理強いせず、本人の要望を傾聴しながら対応している。トイレの声掛けは人前でせず、居室や小声でするよう心がけている。	職員と利用者の関係性から逸脱することのないように言葉かけには気を配っている。利用者の勘違いなどにも、誇りを損ねないような気遣いを持って対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力に合わせ分かりやすく説明し、返事のしやすい言葉かけを心がけコミュニケーションを取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな生活スケジュールは、決まっているが、一人おひとりのペースを大切にして希望に添い、外出や買い物に同行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望を聞き、その人らしい身だしなみができるよう支援している。個々が好みの服装をしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	地域の農家や青果市場より新鮮な野菜を取り寄せ、一緒にできる事、下膳等手伝っていただき、家庭的な料理を提供している。視覚からも季節感を味わえるよう、時期に応じた花を飾ったり、果物を提供する。	食材は法人でまとめて購入し、調理専門の職員が献立を考え、3食を作っている。誕生日には、ケーキを用意したり、行事や催事には、その日にあった食事を提供し、食事が楽しみになるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を記録し、摂取量の低下が見られる方には、本人希望の飲み物を、飲みやすい形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせ、歯磨きやうがい等を支援している。入れ歯も義歯洗浄剤につけて衛生的に管理している。また訪問歯科と契約しており腫れや痛み等のトラブルが起きた際にも迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人の排泄記録をとり、排泄パターンを把握することで、必要な方に誘導介助し、出来るだけトイレで排泄できるように支援している。	日中は、全員がトイレで排泄できるようにしている。夜間は、定期的に巡回し、トイレでの排泄支援をしている。転倒の危険性がある利用者には夜間帯のみポータブルトイレを提供するなど、自立に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄記録にて、排便があるかどうか確認している。便秘の方は、医師に相談し便秘薬を処方してもらっている。また水分を多く摂取できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番も本人の希望を尊重し、せかさず、入浴する気持ちよさを体感してもらうよう努めている。	週2回の入浴を基本としている。曜日と時間・入浴の順番は、利用者を選んでもらい朝の9時から湯を沸かして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間を把握し、一人一人の状況に応じて安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診記録、処方箋、服薬情報にて、一人一人の内容を理解し、常に症状や急変に気を配り、必ず内服の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る人は玄関の掃き掃除、洗濯物干しや洗濯たたみ等職員と一緒にしている。レクではトランプや、CDで懐メロを聞いたり、カラオケを職員と共にも唄い、賑やかで笑顔の絶えない生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望に応じて職員が同行して買い物に行っている。天気の良い日は、庭で日光浴をしたり、散歩に出かけている。外出することで入居者と地域の人達との交流に繋がる一歩になるのではと考えている。	天気の良い日は利用者が誘いあい、ホームの周辺を散歩している。ホームは外泊や、図書館に通う支援などもしている。また、近くのスーパーや専門店には日用品の買い出しなどに職員と一緒に出かけている。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事務所にしてお金を預かっている。希望時にスタッフが同行し、買い物や銀行のやり取りができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望で、電話利用の対応をしている。ホームに便箋、切手、封筒など用意し、希望時に提供している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、年間を通して採り入れ利用者と一緒に手作り、飾りつけをし掲示している。季節の花を飾り、季節感がわかるよう配慮している。	平屋建てのホームは日当たりが良く、開放感がある。リビングには、明るい色のソファを2か所に置いて、利用者が自由にくつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの通路側に、ソファを設置しくつろぎ、利用者が横になったり、気のあった人との談話の場として共有している。庭に椅子を置いて、屋外でもくつろげる場を作るよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談して、使い慣れたタンス、テレビ等を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。	使い慣れたものや好みの物が持ち込まれ、それぞれ個性的な居室になっている。入居後も家族が洋服掛けを買ってくるなど、家族と連携しながら居心地よく暮らしていけるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内、トイレ、浴室には手すりが設置されている。また全員に場所がわかりやすいように、各所に名札をつけている。		